

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

DERWENT-ACC-NO: 1999-422996
DERWENT-WEEK: 199939
COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Resin clip for drying clothes, fruits, fish - has string run through holes and string clip openings which are united by resin and casting is performed

PATENT-ASSIGNEE: YAMASA NOSAN YG[YAMAN]

PRIORITY-DATA: 1997JP-0369846 (December 12, 1997)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 11169596 A	June 29, 1999	N/A	005	D06F 055/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP11169596A	N/A	1997JP-0369846	December 12, 1997

INT-CL (IPC): D06F055/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP11169596A

BASIC-ABSTRACT: NOVELTY - The string run through holes (5,6) and string clip openings for string are provided at an arm (2) of the knob (1) and the fulcrum (3). Both hole and opening are united by resin and subjected to casting.

USE - For drying clothes, fruits such as persimmon and fish .

ADVANTAGE - Since clip is made from resin and does not use metal, rusting due to metal is prevented. The clip can hold a persimmon fruit just by pinching its shaft, therefore drying fruit is simple and efficient without any futility.

DESCRIPTION OF DRAWING - The figure shows the perspective diagram of the resin clip: (1) Knob; (2) Arm; (3) Fulcrum; (5,6) String run through hole.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/12

TITLE-TERMS:

RESIN CLIP DRY CLOTHING FRUIT FISH STRING RUN THROUGH
HOLE STRING CLIP OPEN
UNITE RESIN CAST PERFORMANCE

DERWENT-CLASS: A84

CPI-CODES: A12-H12;

ENHANCED-POLYMER-INDEXING:

Polymer Index [1.1]

018 ; P0000 ; S9999 S1434

Polymer Index [1.2]

018 ; N9999 N5743 ; N9999 N6484 *R N6440 ; Q9999 Q7556 ; Q9999

Q7976

Q7885 ; B9999 B5287 B5276 ; ND01 ; K9416 ; B9999 B4591 B4568 ; Q9999

Q6768 Q6702

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1999-124388

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-169596

(43) 公開日 平成11年(1999) 6月29日

(51) Int.Cl.⁹
D 0 6 F 55/00

識別記号

F I
D 0 6 F 55/00

C

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-369846

(22) 出願日 平成9年(1997)12月12日

(71) 出願人 591165425

ヤマサ農産有限公司

新潟県佐渡郡赤泊村大字大杉240

(72) 発明者 金子 博

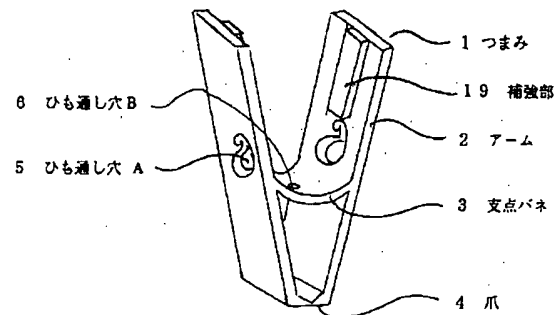
新潟県佐渡郡赤泊村大字大杉240番地

(54) 【発明の名称】 物干しクリップ

(57) 【要約】 (修正有)

【解決手段】 つまみ部、爪、支点、バネ等で構成されているクリップであって、アーム2や支点バネ3、スプリング等の一部に、ひもに吊るす為のひも通し穴5、6、又は、ひも挟み口等を設け、それらが樹脂等で一体として成型された。

【効果】 金属の錆びも出ず、洗濯物が汚れることも無く、単価も安く押さえることができる。又、一度ひもにクリップを装着しておけば、ひもが切れるまで数年にわたって利用でき、あとはクリップで柿なり軸を挟むだけでよい。



【特許請求の範囲】

【請求項1】つまみ部、支点、爪、バネ等で構成されているクリップであって、全体の一部に、ひも通し穴(5)、(6)又は、ひも挟み口(7)、(8)を設け、それらが樹脂等で一体となって成型されたことを特徴とする物干しクリップ

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、洗濯物や農水産物等を干す際、それらを吊るすためのクリップに属するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、洗濯物は、大部分が樹脂製のつまみと、爪の付いた2本のアームを金属のスプリングで押さえているクリップを使用して吊るしていた。農水産物は専用のクリップが少ない為、無い産物についてはそれらを代用していたり、干し柿を製造する際は、地方により収穫の方法、干す方法が違うが、干し柿専門の地方では、柿なり軸(14)を付けて、あるいは、結果枝までも付けて収穫する。その地方では細い糸で柿なり軸(14)を縛り、又、結果枝を付けたものは縄の寄りを戻し、そこにこの結果枝を編み込んで吊るしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の洗濯物クリップは、スプリングが金属の為腐食し折れたり、錆で洗濯物が汚れたり、このクリップは分割生産の為そのコストがかかったり、組み立てに更に労力がかかり単価の高い原因になっている。又、農水産物を干すクリップは市場が狭いせいか、専用のものが少なく、それらを代用していた。干し柿製造では、収穫の方法により干す方法も違ってくる。干し柿専門の地方では柿なり軸(14)を付けて、あるいは結果枝までも付けて収穫している。この地方の吊るす方法は、小さい柿なり軸(14)を細い糸で縛ったり、結果枝を付けたものは、縄の寄りを戻し、そこにこの結果枝を編み込むという細かい面倒な作業をしている。そして干し柿を出荷する際は、柿なり軸(14)の根元で切って出荷するため、使用した細い糸は柿なり軸(14)と共に残り、それは廃棄するか冬の間に結び目をもどして再利用する、資材の無駄、あるいは余計な労力をかけている。又、結果枝を付けて収穫する方法は縄の寄りを戻し、そこにこの結果枝を編み込むという面倒な作業をしている。更にこの方法は来年用の結果母枝を採ってしまうことになるため、樹形を維持しにくいとともに隔年結果の原因ともなっていた。本発明は、以上の欠点を解決することを課題とした。

【0004】

【課題を解決するための手段】つまみ部、爪、支点、バネ等で構成されているクリップであって、アーム(2)や支点バネ(3)、スプリング(18)等の一部に、ひもに吊るす為のひも通し穴(5)、(6)、又は

ひもはさみ口(7)、(8)等を設け、それらが樹脂等で一体として成型されたことを特徴とする。本発明は以上のような物干しクリップである。

【0005】

【発明の実施形態】以下本発明の実施形態について説明する。つまみ部、爪、バネ、支点等で構成されているクリップであって、全体の一部[アーム(2)や支点バネ(3)あるいはスプリング(18)等]に干し物をつまんだクリップを、ひも(12)に吊るすための、ひも通し穴(5)、(6)や、ひもはさみ口(7)、(8)等を設け、それらが樹脂等で一体に成型された物干しクリップである。本発明は以上のようになっている。これを使用する方法は、ここでは干し柿の場合について説明する。所定の数の図1のクリップの双方のひも通し穴A(5)にひも(12)を通し、適当の間隔に取り付ける。ひも(12)を通す方法は、図2のひも通し穴(5)の大きい穴へまず通し、その後ひも(12)を小さい穴の方へ送る。こうすることによりさらにクリップが安定するが、正円の穴でも充分である。このようにして取り付けられたならば、このクリップのつまみ(1)の双方を内側に力を加えれば爪(4)が開く。そのまま柿なり軸(14)を挟む。このようにして次々と挟み込む。終わると、ひも(12)の一端を持ち上げれば図8のようにできあがる。これと同じ方法で図4のひも挟み口A(7)あるいは図5のひも挟み口(8)にひも(12)を挟み、その後クリップで次々に柿(13)をつけて行く。終わると、ひも(12)の両端を持ち上げれば、図10のようになる。この場合ひも挟み口B(8)は図5のようにアーム(2)の内、外側どちらでも良い。これらの方法は、太さを考慮したひも(12)にひも通し穴(5)やひも挟み口(7)、(8)を利用して取り付けることにより、爪(4)に柿(13)等の重量をかけないときは、クリップはひも(12)を伝って自由に動かすことができるが、爪(4)に柿等の重量をかけるとクリップの爪(4)の方が下がり、図8のように、ひも通し穴(5)でひも(12)を折る作用が起きる為、ひも(12)を伝ってクリップが移動することは無い。又、図6のように複数のクリップを連結部(9)でつなぎ一体で成型することもできる。両端のクリップに柿なり軸を(14)を挟み、図9と同じ形態で利用できる。又、図7のように一個のクリップにリング(10)とつり糸(11)を一体で成型し、竿等に釘等を打ち付け、そこにこのリング(10)をかけ利用することもできる。図11のように、このリング(10)の部分を球(17)状にし、相手方に凹部(16)を設け利用することもできる。又、図1のクリップのひも通し穴B(6)にひも(12)を通し、支点バネ(3)の下側でひも結びを作り利用すると図9のようにできる。図12のように、これらのクリップは爪(4)の部分を大きく開かせるためにアーム(2)の途中から双方外側に曲げることができ

る。又、支点バネ(3)の補強に両方のアーム(2)を繋ぐように、スプリング(18)を設けることもできる。又、図1のようにアーム(2)を補強するためにアーム(2)の一部に補強部を設けることもできる。図1、図4、図5の実施例では横吊り、縦吊りどちらでも利用できる。なお、爪(4)の形状は、ノコギリ歯、三枚歯等その他色々応用できる。

【0006】

【発明の効果】本発明は金属は使用せず、樹脂等の射出成型等で一体に成型されたことを特徴とする為、金属の錆びも出ず、洗濯物が汚れることも無く、単価も安く押さえることができる。又、一度ひも(12)にクリップを装着しておけば、ひも(12)が切れるまで数年にわたって利用でき、あとはクリップで柿なり軸(14)を挟むだけでよく、非常に簡単で能率的であり、柿(13)が落ちることも無くより安定的に保持できる。細い糸をもどく必要もなく、廃棄する資材の無駄も無い。又、柿なり軸(14)だけあれば良い為、結果枝を採る必要は無く、剪定により樹形は自由にでき隔年結果をある程度防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

- 【図1】 本発明の斜視図である。
 【図2】 本発明の正面図である。
 【図3】 本発明の側面図である。
 【図4】 本発明の他の実施例の側面図である。
 【図5】 本発明の他の実施例の側面図である。
 【図6】 本発明の他の実施例の側面図である。
 【図7】 本発明の他の実施例の側面図である。

【図8】 本発明の使用説明側面図である。

【図9】 本発明の他の実施例の使用説明側面図である。

【図10】 本発明の他の実施例の使用説明側面図である。

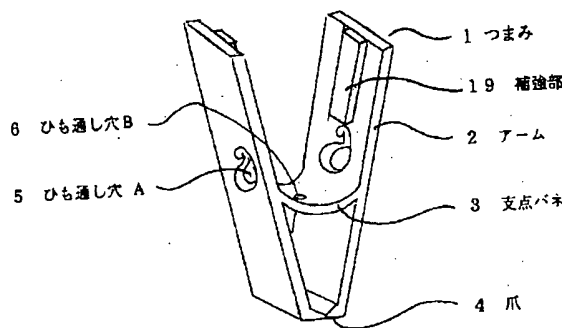
【図11】 本発明の他の実施例の使用説明側面図である。

【図12】 本発明の他の実施例の側面図である。

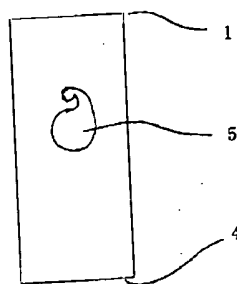
【符号の説明】

- | | |
|----|--------|
| 1 | つまみ |
| 2 | アーム |
| 3 | 支点バネ |
| 4 | 爪 |
| 5 | ひも通し穴A |
| 6 | ひも通し穴B |
| 7 | ひも挟み口A |
| 8 | ひも挟み口B |
| 9 | 連結部 |
| 10 | リング |
| 11 | つり糸 |
| 12 | ひも |
| 13 | 柿 |
| 14 | 柿なり軸 |
| 15 | さお |
| 16 | 凹部 |
| 17 | 球 |
| 18 | スプリング |
| 19 | 補強部 |

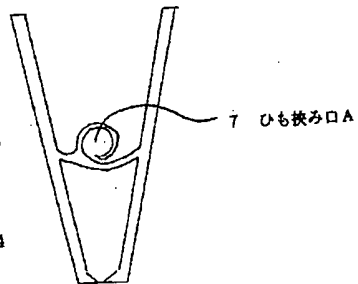
【図面1】



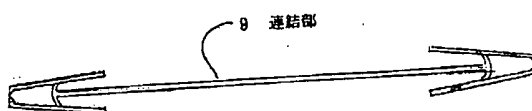
【図2】



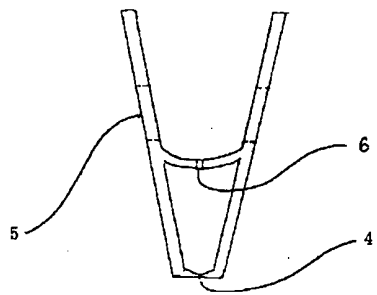
【図4】



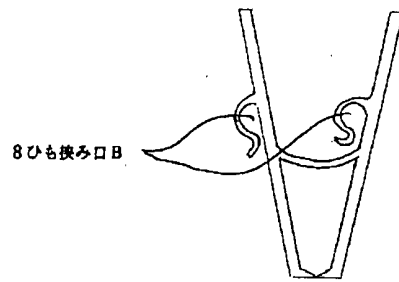
【図6】



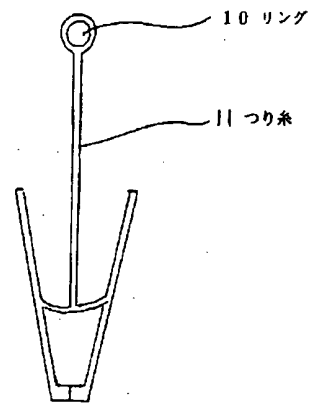
【図3】



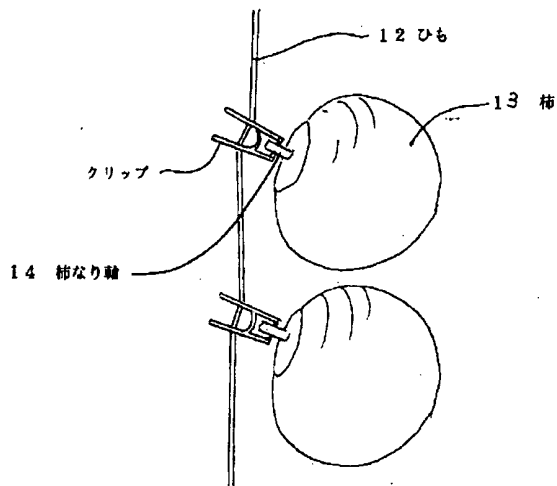
【図5】



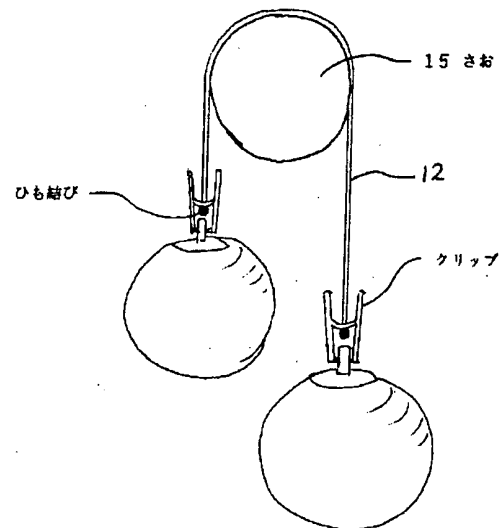
【図7】



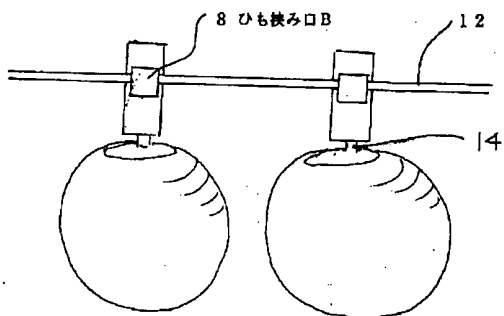
【図8】



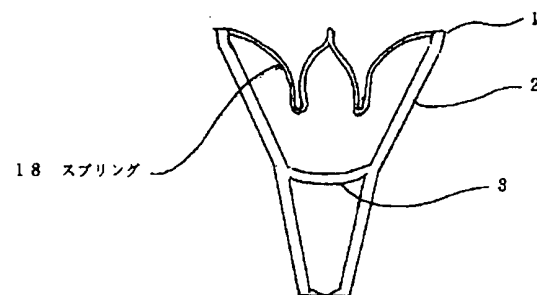
【図9】



【図10】



【図12】



【図11】

